令和８年度　　上河内中央小学校　学校評価書

※　網掛けのない部分が評価計画，網掛けの部分が評価結果を受けて記入する。

１　教育目標（目指す児童像含む）

（１）基本目標

「人間尊重の精神」を基盤に，２１世紀社会の担い手として，「心身ともに健康で，主体的に考え表現でき，粘り強く頑張り抜き，自らの向上とよりよい社会の発展を目指し，たくましく生きる人間」の育成を図る。

（２）具体目標（目指す児童像）

・よく考え，学ぶ子ども（知）　・自分をみつめ，つくせる子ども （徳）　・明るく，たくましい子ども（体）

【合 言 葉】　かしこく・やさしく・たくましく

２　学校経営の理念（目指す学校像含む）

「地域に愛され信頼される学校」を目指し，

・児童にとっては，毎日の活動を楽しみにし，「できる」「分かる」喜びが感じられ，自他を大切にする学校

・保護者にとっては，安心して子供を通わせ，家庭の役割を自覚して共に力を合わせることのできる学校

・地域住民にとっては，学校の取組を理解し目標を共有しながら積極的に連携・協働できる学校

・教職員にとっては，教育への情熱をもってチームとして組織的に取り組み，ワークライフバランスを図りながら指導力向上に努める学校となるよう経営を行う。

３　学校経営の方針（中期的視点）　※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針は文頭に〇印を付ける。

（１）児童が自分の可能性を開花させ，認め合い，学び合い，高め合う集団づくりに努める。

（２）一人一人の児童を主語にする主体的な学びへの効果的な支援・伴走に転換し，不断の授業改善を行うとともに，学習習慣の形成を図る。

（３）豊かな心や創造性とともに，自らの目標の実現に向けて粘り強く努力する心と体のたくましさを涵養する教育活動を推進する。

（４）教職員がチームの一員として連携協働しながら指導力を向上させるとともに，業務改善や勤務時間を意識した働き方を進める。

（５）組織的な校内体制を整備し，家庭や関係機関との連携を図り，多様な児童の状況に応じた指導・支援を充実する。

〇（６）「小中一貫教育・地域学校園」と「魅力ある学校づくり地域協議会」（以下「地域協議会」）を充実させ，地域とともにある学校づくりの推進に努める。

（７）業務量管理・健康確保措置の実施 教職員が健康で生き生きとやりがいをもって勤務し，質の高い教育を行うため下記の目標を掲げ，働き方改革を推進する。

【上河内地域学校園教育ビジョン】
かしこく，たくましいゆずっ子の育成　～基本を身に付け，人とつながり，夢に向かって生きる子どもを育てよう～

４　教育課程編成の方針

（１）基本方針

教育基本法，学校教育法，同施行規則等の法令と学習指導要領，栃木県教育委員会の「とちぎ教育ビジョン 2026-2030」並びに宇都宮市教育委員会の「宮っ子未来ビジョン 2.0」「第２次宇都宮市学校教育推進計画後期計画」「第２次宇都宮市学校教育スタンダード」「令和８年度指導の重点」，前年度の教育課程の反省及び本年度の努力点等を十分踏まえて，本校教育目標達成のための教育課程を編成する。

（２）具体方針

主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善を推進し創意工夫を生かした特色ある教育活動を展開する中で，児童の心身の発達の段階や特性及び学校や地域の実態に配慮しながら，生きる力を育むことを目指す。

①　基礎的・基本的な知識及び技能の習得を図り，それらを活用する力を育成するとともに，目標をもち，自ら学ぶ意欲を育む。また，特別支援教育の視点を取り入れたり，各教科等のねらいを踏まえた「リアル」と「デジタル」がベストミックスされた学習活動を実現したりできるような教育課程の編成に努める。

②　学校行事や体験活動において，目標を立てて挑戦する活動を設定した上で，活動後に自らの成長を振り返る活動や，その努力を認め励ます指導を行うことで，自信や意欲を育み，挑戦する心，あきらめない心などのたくましさの涵養を目指す。道徳科はもとより，各教科，外国語活動，総合的な学習の時間及び特別活動のそれぞれの特質に応じて，適切な指導を行う

ようにする。また，家庭や地域社会との連携をさらに深め，道徳性の育成が図られるような教育課程の編成に努める。
③　学力や体力の向上を目指して，年間授業時数を確保するために学校行事の精選に努め，デジタルを効果的に活用するとともに学校の創意を生かし，特色ある教育活動を展開する中で，各教科・領域間の調和と統一ある教育課程の編成に努める。

5　今年度の重点目標（短期的視点）

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する重点目標は文頭に〇印を付ける。

（１）学校運営
・教職員一人一人がチームの一員としての自覚をもち，自分の能力を発揮するとともに，お互いに助け合い，励まし合い，教え合って成長し合うチームづくりの推進
〇校内研修及び地域学校園研修を中心とした教職員の資質・能力の向上
・1 人 1 台端末の日常的・効果的な活用を通して，自律した情報の使い手を育む教育の充実
・学級や学校の生活上の課題を見いだし，課題を解決するために話し合い，多様な意見のよさを生かして合意形成を図る主権者教育の推進（主に特別活動）
・地域の教育資源等を積極的に活用し，地域とともにある学校づくりの推進　・業務の効率化と勤務時間を意識し，児童と向き合う時間の確保と，心身ともに健康な状態で職務の遂行
（２）学習指導
・主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善（上央小授業スタンダードによる授業実践）
〇基礎的・基本的な知識及び技能の習得と，学び合いを通したコミュニケーション能力の向上
・活動の目的や手順を示したり，児童の長所や経験を生かした追究方法を選択させたりする，個に応じたよさを伸ばす指導の充実
（３）児童生徒指導
・進んで挨拶し，時と場に応じた言葉づかいを意識できる児童の育成
〇自己有用感を育て，互いに認め合う集団づくりの推進　〇規則を守り，節度ある生活ができる児童の育成
・いじめ・不登校等に対する組織的な校内体制整備，家庭や関係機関との連携により，多様な児童の状況に応じた指導・支援の充実
（４）健康（保健安全・食育）・体力
・教育活動全体を通した運動機会の創出
〇瞬発力や筋力，投力を高め，基礎体力を向上させる。
・健康を管理する能力の育成と，正しい姿勢の指導の徹底
・給食の時間や各教科等における食に関する指導と食文化の学習の充実
・登下校の安全指導と災害を想定した避難訓練の実施

6　自己評価

A1～A21は市共通評価指標　B1～は学校評価指標（小・中学校共通，地域学校園共通を含む）
※「主な具体的な取組の方向性」には，A拡充　B継続　C縮小・廃止，を自己評価時に記入
※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は，文頭に〇印または該当箇所に下線を付ける。

第２次宇都宮市学校教育推進計画後期計画基本施策	評価項目	主な具体的な取組	方向性	評　価
１－（１）確かな学力を育む教育の推進	Ａ１　児童は，他者と協力したり，必要な情報を集めたりして考えるなど，主体的に学習に取り組んでいる。 【数値指標】 児　童　９０%以上 教職員　９０%以上 保護者　９０%以上	①　主体的・対話的で深い学びの場を設定し，ペアやグループ学習などの学び合いを通して，自分と友達の考えを比較させたり関連させたりしながら，自分の考えを表現できる児童を育て，深い学びの実現に努める。 ②　授業では，「学習のきまり」を全校で徹底し，基礎・基本の定着を図りながら，目標をもって取り組む意欲を育てる。 ③　学習課題を解決するために，見通しをもって友達と話し合ったり必要な情報を集めたりしながら，じっくり考える態度を育てる。		【達成状況】 【次年度の方針】

1－（2）豊かな心を育む教育の推進	Ａ２　児童は，思いやりの心をもっている。 【数値指標】 児　童　９０％以上 教職員　９０％以上 保護者　９０％以上 地域　　９０％以上	①　道徳教育指導計画に基づき，全教育活動を通して道徳教育を計画的に実施する。 ②　体験活動と関連を図った道徳科の授業を実施し，生命や人権を尊重する心や，人を思いやる心などを涵養する。 ③　児童会活動や清掃における縦割り班活動を通して，思いやりの気持ちをもって助け合い協力する態度を育成する。		【達成状況】 【次年度の方針】
	Ａ３　児童は，目標に向かってあきらめずに，粘り強く取り組んでいる。 【数値指標】 児　童　９０％以上 教職員　９０％以上 保護者　８５％以上	①　各教科の授業や各種検定等において，児童が目標をもって取り組む機会を設けるとともに，児童が目標の達成に向けて努力している姿を学級・学年において称賛する。 ②　道徳や学級活動の授業において，目標をもって粘り強く取り組むことの大切さを考えさせ，そうした実践に向けた意欲を高める。		【達成状況】 【次年度の方針】
1－（3）健康で安全な生活を実現する力を育む教育の推進	Ａ４　児童は，健康や安全に気を付けて生活している。 【数値指標】 児　童　９０％以上 教職員　９０％以上 保護者　９０％以上	①　児童が自分の健康に気を付けて自ら健康を管理できるよう，学級活動，体育，学校行事と関連を図った保健指導や日常の生活指導を行い，さらに各種便り等で保護者に啓発指導を行う。 ②　学校給食と各教科等との関連を図った指導のもと，学校栄養士とも連携し栄養のバランスのとれた食事や望ましい食習慣の形成を図る。 ③ 危機を予測し自らの命を守り抜く行動力を育成するため，日常指導における安全指導を充実するとともに，交通安全教室，避難訓練等を計画的に実施する。		【達成状況】 【次年度の方針】
1－（4）将来への希望と協働する力を育む教育の推進	Ａ５　児童は，自分のよさや成長を実感し，協力して生活をよりよくしようとしている。 【数値指標】 児　童　９０％以上 教職員　９０％以上	①　児童の自己肯定感を高められるよう，道徳やキャリアパスポートを積極的に活用したり，児童相互に認め合う場を数多く設けたりするとともに，担任も児童の成長を認め励ますよう努めていく。 ②　日常的に協力する大切さを話し合う時間をとるとともに，学級活動や縦割り班活動での行事の後には，振り返りを行い互いの力を合わせたからこそ達成したことを実感させ，協力の大切さを確認する。		【達成状況】 【次年度の方針】
2－（1）グローバル社会に主体的に向き合い，郷土愛を醸成する教育の推進	Ａ６　児童は，英語を使ってコミュニケーションしている。 【数値指標】 児　童　９０％以上 教職員　９０％以上	①　外国語科・外国語活動を通じて，言語や文化について体験的に理解を深め，積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成する。 ②　外国語科・外国語活動に関する校内研修や授業について意見を交わす機会を充実させ，指導力の向上を図る。 ③　授業の中で，あいさつや会話などの実践的なやりとりを積極的に取り入れ，児童が日常生活に英語を使うようコミュニケーション意欲の向上を図る。		【達成状況】 【次年度の方針】

	Ａ７　児童は，宇都宮の良さを知っている。 【数値指標】 児　童　８５％以上 教職員　８５％以上 保護者　８０％以上	①　生活科，社会科，総合的な学習の時間の授業や，市内や地域での校外学習等において，学習内容に関連させながら児童が身近な地域や宇都宮市のよさに気付く指導に努める。 ②　地域人材を活用するなどして，宇都宮市の歴史，文化，伝統産業，特産物等についての理解や関心を深められるようにしていく。		【達成状況】 【次年度の方針】
２－（２）情報社会と科学技術の進展に対応した教育の推進	Ａ８　児童は，デジタル機器や図書等を学習に活用している。 【数値指標】 児　童　９０％以上 教職員　９０％以上 保護者　８５％以上	①　児童が個人用パソコンや情報通信ネットワークなどの情報手段に親しみ，適切に活用する能力を育成できるよう，授業や家庭学習において積極的にデジタル機器を活用する。また，デジタル機器を活用した授業の実践例を紹介し，教師の指導力向上に努める。 ②　各学年のその時期の授業内容との関連に配慮した教育図書の整備充実等，学校図書館の環境整備に努める。 ③　読書の時間や読み聞かせの時間，図書だよりの発行などを通して児童の読書意欲を喚起する。		【達成状況】 【次年度の方針】
２－（３）持続可能な社会の実現に向けた担い手を育む教育の推進	Ａ９　児童は，「持続可能な社会」について，関心をもっている。 【数値指標】 児　童　９０％以上 教職員　９０％以上	①　総合的な学習の時間等において，環境や食をテーマとした地域や世界の学習内容を生かし，環境問題への関心を高め，環境と調和しながら生きる意識や態度を育成する。 ②　「持続可能な社会」について児童の関心を高めるため，SDGs に関わる内容を授業等で積極的に取り上げるとともに，日頃からごみの分別や電気や水の節約などの取組を通して，「持続可能な社会」に向けてできることに取り組む指導をする。 ③　東日本大震災をはじめとした過去の災害の具体事例から学ぶ教材を工夫し，防災教育を充実する。		【達成状況】 【次年度の方針】
３－（１）インクルーシブ教育システムの充実に向けた特別支援教育の推進	Ａ10　教職員は，特別な支援を必要とする児童の実態に応じて，適切な支援をしている。 【数値指標】 児　童　９０％以上	①　特別支援教育コーディネーターや児童指導主任を中心に，全校で特別な支援が必要な児童に関する共通理解を図り，一人一人のニーズを踏まえた支援を組織的に行う。また，必要に応じてケース会議を開き，迅速かつ適切に対応できるようにする。 ②　特別支援学級の児童はもとより，通常学級においても，不登校児童など，必要に応じて個別の指導計画の作成し，それに基づく合理的な配慮を伴う指導に努める。		【達成状況】 【次年度の方針】

3－（2） いじめ・不登校対策の充実	A11　教職員は，いじめが許されない行為であることを指導している。 【数値指標】 児　童　９０%以上 教職員　９０%以上 保護者　９０%以上	①　「上河内中央小学校いじめ防止基本方針」やいじめ対策のための取組を学年・学級懇談会や各種便り等を通して計画的，継続的に保護者や地域に周知していくとともに，方針に沿っていじめの防止に努める。 ②　いじめの早期発見・早期対応のため，いじめゼロを目指した定期的なアンケート調査の実施に加え，アンケートの結果と対応表を全職員にも周知するとともに，年に２回の教育相談を実施して問題の早期発見や信頼関係の醸成に努める。		【達成状況】 【次年度の方針】
	A12　教職員は，不登校を生まない学級経営を行っている。 【数値指標】 児　童　９０%以上 教職員　９０%以上 保護者　９０%以上	①　児童の自己肯定感を高められるよう，児童相互に認め合う場を数多く設けたり，キャリアパスポートを積極的に活用したりするとともに，担任も認め励ます指導に努める。 ②　教育相談，アンケート，Q-U調査等の結果を活用し不適応傾向のある児童の早期発見と不登校の兆候や傾向の児童に係る校内全体の情報共有を図り，必要に応じてケース会議を開き，迅速かつ適切に対応する。また，状況に応じて個別に面談の回数を増やすなど，個に応じた支援を継続的に進める。		【達成状況】 【次年度の方針】
3－（3） 外国人児童生徒等への適応支援の充実 3－（4） 多様な教育的ニーズへの対応の強化	A13　学校は，一人一人が大切にされ，活気があり，明るくいきいきとした雰囲気である。 【数値指標】 児　童　９０%以上 教職員　９０%以上 保護者　９０%以上 地域　　９０%以上	①　「かしこく，やさしく，たくましく」の合言葉の浸透を図り，縦割り班活動や児童会活動を活用して，笑顔と活気のある楽しい学校づくりを進める。保護者に対して，学年便りで，行事等での児童の活躍の様子を積極的に伝えていく。 ②　Ｑ－Ｕの結果を分析し，支援が必要な児童を把握したり，日頃の観察をきめ細やかに行ったりして児童一人一人が生き生きと学校生活を送ることができる学級経営を行う。状況に応じて随時面談を実施し，必要に応じてスクールカウンセラーや市教育センターなどの関連機関につなげるなど，児童の心に寄り添った丁寧な対応に努める。また，支援の必要な児童については，学校全体で情報を共有し，全職員で見守る体制を整える。		【達成状況】 【次年度の方針】
4－（1） 教職員の資質・能力の向上	A14　教職員は，分かる授業や児童にきめ細かな指導を行い，学力向上を図っている。 【数値指標】 児　童　９０%以上 教職員　９０%以上 保護者　９０%以上	①　児童の関心や理解を促す教材開発と，授業のねらいの明確化，振り返りの時間の確保など分かる授業を目指した「上央小授業スタンダード」による指導法の工夫に努め，一人一授業を通して共有化を図る。 ②　算数科において，習熟度別学習，少人数学習，ＴＴを効果的に実施するとともに，かがやきルームやなかよし学級での個別指導等を通して，児童一人一人の学習状況に応じたきめ細かな指導をする。		【達成状況】 【次年度の方針】

４－（２） チーム力の向上	Ａ15　学校に関わる職員全員がチームとなり，協力して業務に取り組んでいる。 【数値指標】 教職員　９０%以上	①　学校内において好ましい人間関係の醸成を図るよう努めることで，教職員と学校スタッフとが気軽に声を掛け合える雰囲気作りを行う。 ②　打合せ等により全職員が定期的に情報を共有したり，教職員間の「報告・連絡・相談」を推進したりすることで,「風通しのよい･働き甲斐のある職場づくり」に努める。 ③　学校目標及び本年度の努力点について共通理解を図り，チーム学校として協働していくことで，同僚性を高められるようにする。		【達成状況】 【次年度の方針】
４－（３） 学校における働き方改革の推進	Ａ16　勤務時間を意識して，業務の効率化に取り組んでいる。 【数値指標】 教職員　９０%以上	①　学校の働き方改革の視点に立って教職員一人一人が，勤務時間を意識し，業務の効率的な実施や計画的な処理に努める。また，計画的に定時退勤を設定し促進する。 ②　教職員の負担軽減に向け，学校の組織運営の改善や，各種行事等の実施方法の改善を行う。 ③　日課を工夫することで教職員の放課後の時間を確保し，業務の効率的な実施や計画的な処理に努める。		【達成状況】 【次年度の方針】
	Ａ17　児童と向き合う時間を確保できている。 【数値指標】 教職員　９０%以上	①　教科担任制を取り入れ，教材研究を工夫したり，教員業務支援員を活用したりすることで，児童と向き合う時間を生み出す。 ②　学習情報システムやさくら連絡網等の各種システムを効果的に活用し，業務を効率的に進める。		【達成状況】 【次年度の方針】
５－（１） 全市的な学校運営・教育活動の充実	Ａ18　学校は，「小中一貫教育・地域学校園」の取組を行っている。 【数値指標】 児　童　９０%以上 教職員　９０%以上 保護者　８５%以上	①　６年生の乗り入れ授業・中学校訪問，小中合同あいさつ運動，宮っ子チャレンジ，冒険活動教室での交流などの行事を通して，積極的な交流を図りながら活動を進める。 ②　地域学校園全体研修会における各部会での情報交換を通して，各校が共通理解のもと課題に合った目標を設定し，連携・協力して指導にあたる。更に学校だより，ＨＰで発信していく。		【達成状況】 【次年度の方針】
５－（２） 主体性と独自性を生かした学校経営の推進 ５－（３） 地域と連携・協働した学校づくりの推進	Ａ19　学校は，家庭・地域・企業等と連携･協力して，教育活動や学校運営の充実を図っている。 【数値指標】 児　童　９０%以上 教職員　９０%以上 保護者　９０%以上 地域　９０%以上	①　地域協議会を定期的に開催し，学校経営方針への保護者，地域住民の意見反映や，学校関係者評価を実施し地域とともにある学校教育を目指す。 ②　校外での体験活動時の安全確保や，田植え，稲刈り，ぼうじぼ作りの学習支援の協力や参画を得て，学校支援ボランティアを有効に活用し，特色ある学校づくりを推進し，家庭や地域への積極的な情報発信を行う。 ③　出前講座や伝統芸能教室等による体験的な活動を積極的に取り入れ，内容の見直しや活動を工夫することで，よりよい活動ができるようにする。		【達成状況】 【次年度の方針】

６－（１） 安全で快適な学校施設整備の推進	Ａ20　学校は，利用する人の安全に配慮した環境づくりに努めている。 【数値指標】 教職員　９０%以上 保護者　９０%以上 地域　　９０%以上	①　日々校舎内外の巡視をするとともに，月１回施設・設備の安全点検を実施し，必要な箇所の修繕を迅速に行い環境の整備に努める。 ②　危機管理マニュアルを整備するとともに，避難訓練や引き渡し訓練等を通して，火事，地震，竜巻，不審者侵入等の不測の事態への備えを万全にする。 ③　熱中症予防対策，感染症予防対策など，時期に応じた保健指導管理に努める。		【達成状況】 【次年度の方針】
６－（２） 学校のデジタル化推進	Ａ21　コンピュータなどのデジタル機器やネットワークの点から，授業（授業準備も含む）を行うための準備ができている。 【数値指標】 教職員　９０%以上	①　一人一台端末，学校用グループウェア，校務支援システム，デジタル連絡ツール等を効果的に活用する。 ②　コンピュータなどのデジタル機器やネットワークが効果的に活用できるよう，活用実践例を互いに紹介し合うなどして活用力の向上に努める。		【達成状況】 【次年度の方針】
小・中学校，地域学校共通，本校の特色・課題等	○Ｂ１　児童は，時と場に応じたあいさつをしている。 【数値指標】 児　童　９０%以上 教職員　９０%以上 保護者　９０%以上 地域　　８５%以上	①　児童会によるあいさつや正しい言葉づかいの励行や呼びかけをしたり，１学期末と２学期末に行う年２回の「あいさつ・言葉づかい名人」表彰や，地域協議会の挨拶運動や児童によるあいさつ運動で意識を高めたりしながら，日々の生活指導の中であいさつや返事ができる児童の育成を目指す。 ②　学年・学校だより等に，学校でのあいさつの様子を掲載して保護者へ紹介していく。 ③　各家庭や地域でもあいさつや正しい言葉づかいができるように懇談会等であいさつの啓発を行っていく。		【達成状況】 【次年度の方針】
	Ｂ２　児童は，きまりやマナーを守って，生活をしている。 【数値指標】 児　童　９０%以上 教職員　９０%以上 保護者　９０%以上 地域　　９０%以上	①　児童が正しく判断し責任ある行動がとれるよう，その姿を「上央っ子の誓い」「上河内中央小学校の約束」「上河内中央小学校の一日」「校庭での約束」に示したり，家庭に配付したりして学習と生活のきまりの徹底に努める。また，児童自身が規範意識の改善へ主体的に取り組めるよう，児童会を中心に働きかけを行う。 ②　生活当番は，秩序があり安全な学校生活を実践できるよう生活目標を設定し，掲示や放送，校内巡視などを行って指導を徹底する。 ③　「スマホ・ケータイ宮っ子ルール共同宣言」への理解や「フィルタリング設定１００%キャンペーン」における学校の取組等を通して，児童や保護者に対して正しい使い方とマナーを発信し，情報モラル教育を推進し，危機管理能力を高める。		【達成状況】 【次年度の方針】

	Ｂ３　児童は正しい言葉づかいをしている。 【数値指標】 児　童　９０%以上 教職員　９０%以上 保護者　９０%以上 地域　　９０%以上	①　相手の気持ちを考えた言葉づかいや場に応じた言葉づかいができる児童の育成を目指し，生活と学習の両面から日常の指導を充実させる。 ②　児童会によるあいさつや正しい言葉づかいの励行や呼びかけをしたり，年２回の「あいさつ・言葉づかい名人」表彰や，地域協議会の挨拶運動や児童によるあいさつ運動で意識を高めたりしながら，日々の生活指導の中であいさつや返事ができる児童の育成を目指す。 ③　朝の会や帰りの会，学校行事，学級活動等で，時や場に応じた適切な言葉づかいができるよう，学年の発達の段階に応じた指導をする。学級懇談会や個人懇談会等でも，言葉づかいについて話題に取り上げる。		
	Ｂ４　継続的に家庭学習に取り組んでいる。 【数値指標】 児　童　９０%以上 教職員　９０%以上 保護者　９０%以上	①　職員間で共通理解を図り，児童が自主的に学習に取り組めるように自主学習ノートや音読カードなど，具体的な方策を立て継続して指導していく。また，学年間で家庭学習の量について調整する。 ②　年度当初の保護者会で「家庭学習のすすめ」を配付し共通理解を図り，家庭と連携する。児童には「家庭学習への取組ポイント」を示し指導し低学年(20 分)，中学年(40 分)，高学年(1 時間以上)の家庭学習を実践させる。また，学期１回家庭学習強化週間を行い，よく取り組めた児童の家庭学習ノートを紹介することで，児童の意欲を高める。		
	○Ｂ５　児童は，上河内地区のお祭り，催事，作品募集などの地域行事（梵天祭りやふれあいまつり，文化交流祭等）に参加している。 【数値指標】 児　童　９０%以上 教職員　９０%以上 保護者　９０%以上 地域　　９０%以上	①　「ゆずっ子写真展」や「あいさつ運動の標語コンクール」の実施方法を工夫し，参加を呼び掛ける。 ②　地域で行う「ふれあい祭り」等について，児童・保護者に周知し参加を促す。 ③　生活科のまち探検や総合的な学習の時間における地域の調べ学習などを通して，上河内地区のよさに気付かせ，大切にしようとする心情を育む。		

〔総合的な評価〕

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は，文頭に○印または該当箇所に下線を付ける。

7　学校関係者評価

8　まとめと次年度へ向けて（学校関係者評価を受けて）

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は，文頭に○印または該当箇所に下線を付ける。
